

「地域から創るローカル線の維持・活性化にむけた 中間総括・検証会議」開催!



地域の実情と取り組み報告を受けて、ローカル線の維持・活性化にむけた議論が活発に交わされる

JR総連は9月22日(金)、目黒さつきビルにて「地域から創るローカル線の維持・活性化にむけた中間総括・検証会議」を開催し、JR総連推薦議員懇談会共同代表・末松義規衆議院議員をはじめとする国会議員の方々、各地でローカル線の維持・活性化にむけて活動されている地域代表の方々、この間、地域から取り組みをつくり出してきた各単組・労連の仲間とともに、今後のさらなるローカル線の維持・活性化にむけたたたかひについて意思統一を図りました。

議論の冒頭、「5・20政策シンポジウム」以降の取り組みの到達点を確認するとともに、10月1日に「地域公共交通活性化再生法(地域交通法)」が施行され、今後は再構築協議会での議論が焦点になることを共通の認識として確認しました。それを踏まえて、地域代表の方々より「JRは公共交通としての使命がある。赤字だから切り捨てるのはもつてのほかである」、兵庫県香住地区観光協会からは「宿泊客の2割が鉄道を利用してしたが、JR西日本は今年3月のダイヤ改正で、宿泊客が帰りに利用していた列車を廃止した。これから冬の観光シーズンを迎えるが、JRは地域を見捨てるのか」との厳しい意見も出されました。この他、JR北海道労組より、「2016年にJR北海道が公表した単独では維持困難な10路線13線区の沿線56市町村に対して、赤字の原因は国鉄改革のスキームが破綻したことであり、国鉄改革のスキームを正しく知ってもらい取り組みを、組合員と一緒につくってきて現在がある」など、オーラル北海道でたたかってきた教訓などが語られました。

JR総連はこの会議を次なるステップへの足がかりとして、地域との連帯・共闘のさらなる拡大と、今後の具体的取り組みにむけ、とりわけ再構築協議会へ参画することをめざし、ローカル線の維持・活性化にむけて、地域・利用者の声を訴えていくことを確認しました。

全日本港湾労働組合との意見交換実現！横浜港を視察！



今後の物流を見据え、活発に意見が交わされる

JR総連は9月27日、JR貨物労組・JR貨物労連の仲間とともに、港湾で物流を支えている全日本港湾労働組合（全港湾）のご協力のもと、横浜港の視察と意見交換をおこなってきました。

視察は、大さん橋を出港し横浜ベイブリッジをくぐり、本牧ふ頭や大黒ふ頭を回り横浜港を一周するルートで、地上からは感じる事ができないスケールの大きさに圧巻の一言でした。船内では、全港湾・鈴木委員長より、横浜港の歴史と現状、課題などについて説明を受け、大型貨物船が接岸できる南本牧ふ頭では、間近で貨物船への荷役作業を見学し、貨物船と貨物列車の一度に取り扱う貨物量の違いを実感しました。また、輸出入貨物の99.6%を船舶が占めている中、全国に点在する港で働く港湾労働者は約5万1千名しかおらず、要員確保が課題の一つであるとともに、港湾労働者の要員不足は、国民の生活に直結する問題であるとの認識を深めました。

意見交換では、人口減少社会にむかう中での物流の維持、さらに災害時における代替ルートの確保のために、物流モード間の連携がますます重要であることなどの認識の一致を図り、今後も労働者の立場で連携を深めていくことを確認しました。

JR総連は、今後も交通・運輸産業で働く仲間と連携し、公共交通機関としての使命を果たすため、鉄道の維持・活性化にむけて取り組みを進めていきます。



海上からコンテナ船への荷役作業を見学

モンゴル鉄道労組連盟との交流に代表を派遣

JR総連は9月11日～15日、モンゴル鉄道労組連盟（FMRTU）との協定に基づく交流のため、山口委員長以下3名をモンゴル・ウランバートルへ派遣しました。

今回は2019年にFMRTU代表団が日本を訪問して以来、4年ぶりの交流となり、交流協定の更新がおこなわれました。新たな協定ではモンゴル側からの申し出により、相互訪問による交流以外にも、リモート等を活用しながら、鉄道の近代化、自動化について意見交換する場を持つことが新たに盛り込まれました。

現地での交流では、機関区や指令室訪問、職場の組合員との意見交換の場も設定され、モンゴルの労働運動や職場の現状をより深く理解することができました。

さらに、モンゴル労組連合会を表敬訪問し、エルデネバット委員長と労働運動の現状について意見交換。さらに山口委員長はメディアからのインタビューに応じ、その模様はインターネットで配信されました。

JR総連は、今回新たに締結した交流協定の内容を具体的に実行するために、FMRTUとの情報交換を継続していきます。そして、日本の経験を積極的に発信し、近代化等を通じて職場環境が変化していく中でも、安全が最優先される職場の実現と、連帯の強化につなげていきます。



モンゴル鉄道労組連盟のみなさまと

北陸地協「第27回定期委員会」



北陸地協は9月6日、第27回定期委員会を富山県民会館において開催しました。

主催者を代表し松尾議長は①2023JR総連春闘について。②ローカル線問題について。③懲罰的な日勤教育反対について。④責任追及から原因究明の安全確立のたまたかについて。⑤反戦平和の取り組みについて挨拶しました。

ご来賓のJR総連・山口委員長は挨拶で、①安全確立について、列車は止まっている時が一番安全である。不安を感じた時はまずは列車を止めることが大切。②2024春闘にむけて、職場での労働運動強化が最大の課題である。③またローカル線問題について、函館線の問題は日本全体の物流に関わる問題である。伯備線・山陰線を守る事は鉄道貨物輸送を守るたまたかいかいでもある。④さらに反戦平和について述べられました。

質疑では3名の委員から、各県協・各単組の活動内容について発言がありました。

役員体制では、新たに吉川博（貨物労組）議長をはじめとする新体制を確立しました。

また、この間事務局長として牽引して頂いた関根利秋さん（東労組）が退職のため、今定期委員会での退任となりました。今ままで本場にありがとうございました。

北陸地協は、今後も更なる連帯を強めて地協活動に邁進します。

【2023年度新三役】

議長 吉川 博（貨物労組）
副議長 下村 達哉（西 労）
事務局長 松尾 崇史（貨物労組）

東北地協「第37回定期委員会」



JR総連東北地協は9月7日、盛岡市内で第37回定期委員会を開催しました。

主催者を代表して皆本議長は、①福島第一原発の処理水の海洋放出問題について、②8月5日に発生した電化柱と旅客列車の衝突に触れ、安全確立と自らの命を守るたかいかいについて、③ローカル線問題について、安心して働ける労働条件の現実にむけた課題について挨拶しました。

また、ご来賓のJR総連熊谷書記長からは、①ニュースなどで報道されている事象の背景にある労働環境や労働条件などの問題について、②地活法の改正に対する課題と実践について、③異常気象をはじめとする環境問題について、④24春闘にむけた課題などについて挨拶をいただきました。

質疑では、JR東労組から、会社施策に対する問題意識と組織拡大にむけて、職場で発生した不安全事故について、ローカル線問題に対する実践などについての発言がされました。また、JR貨物労組からは、会社施策や深刻な要員不足について、支部間交流で議論を深めてきたことについて、鉄道ネットワークの維持にむけてなどの発言がされました。その後、事務局の答弁を受けて、2024JR総連春闘勝利、鉄道輸送を守ること、安全風土の再確立にむけて、戦争体制強化に抗して連帯をつくり出すこと、他労組の妨害を許さずたたかう方針を満場一致で決定しました。

東北地協は、加盟単組の強固な団結と連帯で、組織強化・拡大をつくり出し、労働者の未来を切り拓くために、奮闘していきます。

【2023年度新三役】

- 議長 佐々木克之(東労組)
- 副議長 泉 祐樹(東労組)
- 副議長 大村 博行(東労組)
- 副議長 竹花 博樹(貨物労組)
- 事務局長 湯ノ目 勝(東労組)

中国地協「第37回定期委員会」



JR総連中国地協は9月28日、第37回定期委員会を岡山市「奉還町りぶら」で開催しました。

中国地方では全国のトップを切って「再構築協議会」が設置され、存廃が危ぶまれるJR芸備線、そして機関車の更新時期に伴い廃止が懸念されるJR伯備線の貨物輸送と基地・要員削減の問題など、業務や政策課題が山積しています。またウクライナ戦争の収束が見えない中での改憲の動向、被爆地ヒロシマを中心に島根原発再稼働や上関原発の新設、さらに「核廃棄物中間貯蔵施設」の問題、米軍岩国基地や自衛隊宇宙レーダーの設置など、多くの政治的課題が横たわっています。こうした課題を改めて確認し、来春闘のたたかいかいや今後の組織課題を含め、今後のJR総連運動に繋げる方針を決める重要な委員会となりました。

委員会では元真庭市議の柿本健治氏より「地方自治と公共交通」と題し、講演を受けました。柿本氏からは地方分権として大合併を経た地方自治の誕生を振り返るとともに、行政需要が変化しても変わらない地方財政の仕組みや、「基準財政需要額」算定から見た地域公共交通の確保の課題など、地産地消を進める真庭市のJR姫新線をはじめとした地域公共交通の問題などが提起されました。そうした「コモン・ニーズ」の充足に向けた財源や公共交通の確保、地域社会環境に問われる今後の対策が掘り下げられ、現れた「問題」を「地域」という視点から運動を進めていくべきとの糸口が投げかけられました。

委員会には多くの激励メッセージが届けられるとともに、「労働運動の真価を発揮しよう」といった「委員会宣言」を採択し成功裡に終了しました。

【2023年度新三役】

- 議長 西田 茂(西 労)
- 副議長 井上 寛雅(貨物労組)
- 事務局長 湯谷 邦彦(西 労)

「9・18ワタシのミライ NO NUKES(脱原発)&NO FOSSILS(脱化石)

再エネ100%と公正な社会を目指して」に参加!



9月18日(月・祝)、「さようなら原発1000万人アクション」などが主催する「9・18ワタシのミライNONUKES(脱原発)&NOFOSSILS(脱化石)再エネ100%と公正な社会を目指して」のイベントが東京・代々木公園で開催され、全国から8千名の参加者が結集し、JR総連は在京単組の組合員約90名と9条連の仲間とともに参加しました。

トークショーでは、ルポライター鎌田慧さんが東京電力福島第一原発事故で生じた処理水の海洋放出に触れ、「政府は『福島県漁連の理解が進むまで処分しない』という約束を蹴散らした。こんなにバカにされるのは、私たちが反対の自己主張をしていない報いである。声を出す文化をもう一度つくり出さなければ」と訴えました。

その後、原宿の街をパレードし、沿道の人々に原発問題や気候危機を訴えてきました。

JR総連は、岸田政権の原発推進政策に反対し、組合員と家族が安心して暮らせる脱原発社会の実現にむけて、さようなら原発1000万人アクションなどが主催する集会などに参加していきます!

連合「第18回定期大会」で山口委員長発言!



発言する山口委員長

10月5〜6日、連合「第18回定期大会」が都内で開催されました。

JR総連からは山口委員長が代議員として参加し、運動方針(案)について発言に立ち、「①23春闘では、要求を大きく下回る妥結結果を余儀なくされた単組もあったが、『統一闘争』においては大きな成果を見出すことができた。JR総連は24春闘でも『統一要求・統一闘争』を掲げ、職場の運動づくりをこたわっていく。②連合本部が、24春闘では目に見える形で各産別の共闘体制をつくり、足並みをそろえてヤマ場に向かっていくたたかいかいをつくり、相乗効果につなげることを要請する。③組合員からは『連合の指導性をもっと発揮すべきではないか』という声が多くある。④春闘の原点は、連合各構成組織が一丸となって経営側と向き合うこと。労働組合の組織率が低下の一途をたどっている今、連合の団結力を示し、労働組合、また労働組合運動とはいかなるものかを社会に訴えていくことが必要である。⑤職場の組合員の期待に応える連合運動とは、各産別の措かれた状況が違うという難しい現実の中で、指導性を発揮し、ともにたたかったという実践を、互いに共有し、真の団結をつくりあげ、課題解決のための強い力につなげていくことである。JR総連も微力だが、ともにたたかいかいを担い、連合労働運動の強化にむけて力を発揮していくことを表明する」と述べました。

これを受け連合・清水事務局長は、「①春季生活闘争と組織拡大・強化は、いわば連合にとっては車の両輪、相乗的に動くことが、組織の拡大・強化につながる。そして交渉にも繋がるため、賃金の具体的な引き上げにつながる。②相乗効果を高めるための共闘体制について、議論を深めてまいりたい。賃上げの原動力、それは職場にある。真摯な協議が大事。一体となつてたかかっていく体制づくりということについて、先ほどご指摘があった。議論していきたい。③労働組合の必要性を訴えていく事が必要だという意見があった。この間よく、若手の皆さんと話をすると、『労働組合に入っていると、なんかメリットはあるんですか?』と聞かれる。私は逆に『入っていないことは非常なデメリットなんです』と常に訴えるようにしている。入ったらプラスになるっていうことではなくて、私たちが築き上げてきた労使の交渉に基づいた賃金や労働条件、そういった勝ち取ってきたもの、それを知らない人たちに伝えていく。私たちが築き上げてきたものを大事にしていきたい」との答弁がされました。

JR総連は、組織の強化・拡大を図るとともに、連帯・共闘の輪をさらに広げていきます。

連合「平和行動in根室」に参加!



JR総連は9月9〜10日、連合主催「2023平和行動in根室」に参加しました。今年も、JR貨物労組北海道本から3名、JR北海道労組釧路地本から2名、また連合平和行動のスタッフとしてJR総連伊藤藤広報道部長が参加しました。

初日は、根室市総合文化会館にて、第一部として「北方領土をめぐってこれまでの議論と北方領土根室研究会のこれまでの取り組みについて」と題して、北海道根室高等学校北方領土研究会の部長より講演を受けました。コロナ禍やウクライナ情勢で思うような活動が出来ずにいるが「知るから始め、出前講座などを通じ北方領土返還要求運動を全国に広げていく」と述べられていました。第二部では、北方四島における実話をもとにしたアニメーション映画「ジヨパンニの島」を鑑賞しました。小さな兄弟の絆と生き抜く強さを学ぶとともに、ソ連軍の進駐によって漁が禁止にいられたり、家や財産を奪われてしまうなど、元島民たちの過酷な生活を目の当たりにしました。

2日目は、納沙布岬・望郷の岬公園にて「2023平和ノサップ集会」が開催され、北海道をはじめ全国の構成組織、地方連合会から863名が結集しました。

主催者挨拶として、連合本部・清水事務局長や連合北海道・杉山会長から「元島民の平均年齢が87歳を超えた」「連合としても北方領土問題が解決する日まで運動を継続していく」と述べられました。

私たちは今、憲法9条改悪阻止にむけた反対運動・労働運動の具体的なたたかいかいが求められています。JR総連は「いのち・くらし・平和」の危機を突破するため心を一にする産別・単組の仲間と連帯・共闘をつくりだします。あらゆる戦争政策と憲法9条改悪を許さず、反戦の意思を具体的な行動に移し、職場・地域からたたかいかい抜きましょう。

あなたと家族に安心届けます。保険はおかせください。

各種のお問い合わせは、パソコン・スマホ、から可能ですので、ご利用をお待ちしております。

JR総連・各単組賛助団体

鉄道ファミリー

検索

《取扱商品》

- ▲ 自動車保険・火災保険
- ▲ サークル保険
- ▲ がん保険・医療保険
- ▲ 介護保険
- ▲ JR積立年金
- ▲ すみっこ商店・伊東さつき会館

〒141-0031
東京都品川区西五反田3-2-13 目黒さつきビル
TEL 03-3490-3862 FAX 03-3491-7198